

いのち
生命のにぎわい調査団
いのち
生命のにぎわい通信

第 45 号：発行 平成 30 年（2018 年）1 月

発行：千葉県環境生活部自然保護課
千葉県生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2
（千葉県立中央博物館内）
TEL 043-265-3601 FAX 043-265-3615
URL <http://www.bdcchiba.jp/monitor/>
E-mail monitor@bdcchiba.jp

千葉県で見られる特定外来生物（植物）

新年初めから恐縮ですが、県内で目撃される可能性がある特定外来生物（植物）12 種類をご覧ください（ほかに、ナガエモウセンゴケも県内で記録があります）。最近確認されて分布拡大している種類（※印）もありますので、見かけた際には撮影して、にぎわい調査団あてに報告をお願いします。（写真右下は撮影者の団員番号です。）



オオキンケイギク

北米原産の多年草。道端や河原、土手に生育する。誤って庭に植えられていることも多い。高さ 30～70cm 程度。5～7 月にコスモスに似た黄色い花を咲かせる。



オオハンゴンソウ

北米原産の多年草。道端や河原、荒地に生育する。高さ 3m になる。7～9 月に黄色い花を咲かせる。地下茎から再生するため、駆除には根から掘り返す必要がある。



ナルトサワギク

マダガスカル島原産の一年草または多年草。道端や土手に生育し、高さ 30～70cm。一年中、黄色い花を咲かせる。毒があるため、家畜等に食べさせないよう注意が必要。



アレチウリ

北米原産の一年草。河原や荒地に生育する。8～9 月に黄白色の花を咲かせ、秋に鋭い棘をもった実をつける。他の植物につるで強く巻き付き、枯らしてしまうこともある。



八鍬雅子

オオバナミズキンバイ※

南米原産の多年草。湖沼や河川に生育し、7～10 月に黄色い花を咲かせる。県内では比較的最近発見されている。繁殖力が強いので、見つけた際にはぜひ撮影して報告を！



a0512

オオカワヂシャ

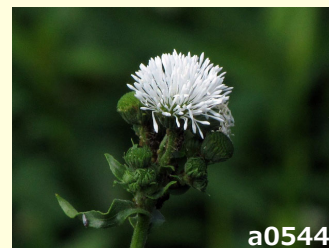
ヨーロッパからアジア北部に原産する多年草。河川や湿地に生育する。4～6 月に直径 5mm ほどの花を咲かせる。在来種のカワヂシャとの交雑も問題となる。



a0512

ナガエツルノゲイトウ

南米原産の多年草。河川や湿地に生育する。4～10 月に白色花を咲かせる。印旛沼流域では水路を埋めるように繁殖してしまい、ボランティアによる駆除が行われている。



a0544

ミズヒマワリ

中南米原産の多年草。湖沼やため池、河川に生育する。9～10 月に白い花を咲かせる。県内ではまだあまり報告がないが、茎や葉の断片から増殖し、繁殖力が極めて強い。



a0189

オオフサモ

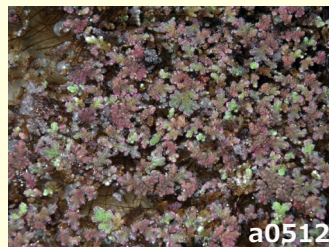
南米原産の多年草。湖沼、水路や河川に生育する。繁殖力が強く切れた断片から増殖するため、県内各地に分布が広がっている。6 月に葉の付け根に小さな花を咲かせる。羽毛のような葉が特徴。



bdc

ボタンウキクサ

アフリカ原産の多年草で、かつては観賞用に栽培されていた。ウォーターレタスとも呼ばれる。湖沼、水路や河川で、水面に浮いて生育し、土に根をはることもある。九州等、暖かい地域では越冬する。



a0512

アメリカオオアカウキクサ

学名 アゾラ・クリスタータ。南北アメリカ原産の一年草。湖沼、水路等の水面に浮き生育する。在来のニシノオオアカウキクサとの交雑種、アイオオアカウキクサは特定外来生物には指定されていない。



a1111 (熊本県)

ブラジルチドメグサ※

南北アメリカ原産の多年草。水路や河川に生育する。繁殖力が強く、水面を覆って水中の植物の光合成を阻害する。印旛沼流域で数年前から発見されているので、見つけた際にはぜひ撮影して報告を！

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報は、当センターと調査団のホームページをご覧ください

「生物多様性センター」<http://www.bdcchiba.jp/> 「調査団」<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>

平成 29 年度 第 2 回現地研修会を開催しました

上総自然学校で秋の谷津田の生きものを観察しよう！

平成 29 年 10 月 17 日（火）

春に佐倉市畔田谷津で開催予定だった第 1 回の研修会は、102 名もの参加申込をいただいていたにもかかわらず雨天中止となってしまいました。秋の研修会は昨年度末から生命のにぎわい調査団グループ団員になっていただいた「上総自然学校（袖ヶ浦市）」で、谷津田の生きものの観察を企画しました。平日開催を希望する声があったことと、今回も多数の参加が見込まれたことから、初の試みとして週末 10/14（土）と平日 10/17（火）の 2 日間、同じプログラムで現地研修会を開催することとしました。

しかし、残念ながら 14 日が雨天で中止。今年は本当に雨にたたられる年となってしまいました。17 日はなんとか決行し、14 日に参加を予定していた 43 名のうち、お一人だけが振り替え参加され、調査団員 19 名、多様性センター 6 名の計 25 名で研修会を行うことができました。朝のうちは雨模様で、午前中は上総自然学校を運営している真光寺の境内にあるプレハブで、上総自然学校の上田隆さんから上総自然学校の歴史、活動、今日の見どころ等をお聞きするとともに、敷地内の谷津田で撮影されたセンサーカメラの動画（イノシシ、シカ、キョン、タヌキ、アナグマ、アライグマ、テン、ウサギ、ホンドリス、キジ等）を拝見しました。また、センター職員から、印旛沼で行っているカミツキガメ防除事業について、30 分程度解説しました。

午後はなんとか雨も小やみになり、谷津田で生きものの観察をすることができました。いちばん印象的だったのは水田の稲穂に作られたたくさんのカヤネズミの巣です。水生生物、特にゲンゴロウの仲間の種類の多さにも驚かされました。わずかな時間でしたが、オオヒメゲンゴロウ、クロズマメゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、チビゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウの 7 種類を見ることができ、よく考えて管理された谷津田の生物多様性の豊かさを感じました。今年度の現地研修会に申し込まれたのに雨で参加できなかった皆様、来年度もひきつづき現地研修会を企画しますので、どうぞご期待ください。



左から時計回りにシマ、オオヒメ、コシマ、オオヒメゲンゴロウ

生命のにぎわい調査団事務局に新しく 森 晃 さんが加わりました！

もり あきら

事務局として長く勤めた中込哲さんが 9 月末で退職され、その後任として 11 月 27 日から、森 晃さんが新しく生物多様性センターの嘱託職員として着任しました。団員の皆様からの生き物報告の受信、確認と調査団ウェブサイトの更新を日々、頑張っています。3 月 10 日の生命のにぎわい調査フォーラムでデビューしますので、お楽しみに！

生命のにぎわい調査フォーラム＆写真コンテスト

平成 30 年 3 月 10 日（土） 午後 1:00 ～ 4:00 中央博物館講堂にて

観察事例紹介と写真コンテストの応募をお待ちしています（締切：事例紹介 2/13（火）、写真コンテスト 2/28（水））

＜これからの季節に観察できる生きもの＞

- 調査対象種：イタチ、キジ、アカガエル類（卵）、トウキョウサンショウウオ（卵）、ニホントカゲなど
- 調査対象種以外（種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします）
- * 冬のタカ類、フクロウ類、ハヤブサ類 * タヌキ、ハクビシンなど哺乳類 * 両生類、爬虫類など
- * 希少生物（生息・生育数が減少している生物）や、外来生物の報告も受け付けています。

メールアドレスなど、団員登録情報に変更がありましたら、事務局までお知らせください